

中医研通信

4月号

2020年4月発行 関西中医鍼灸研究会

〒564-0041大阪府吹田市泉町2-47-27-102

結(ゆい)鍼灸院内 TEL&FAX:06-6380-2236

E-MAIL ADDRESS: mogusa@cb3.so-net.ne.jp

ホームページは <http://www001.upp.so-net.ne.jp/yuihari/top.htm>

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために3月と5月の関西中医鍼灸研究会は延期します。今号は新型コロナウイルス感染症についての特集号です。みんなで新型コロナウイルス感染症と戦うために今号は関西中医研HPIにpdfファイルでアップし公開いたします。

鍼灸OSAKA136号に世話人藤井の「耳管開放症と耳管狭窄症の鍼灸治療」が掲載されます。

中医学と新型コロナウイルス COVID-19

関西中医鍼灸研究会 早川敏弘

※は世話人 藤井正道の注釈です。

【武漢市の閉鎖まで】

2019年12月8日に、武漢で最初に謎の肺炎について報告がありました。

2019年12月30日には、武漢地方政府の内部文書がインターネット上で出回ります。武漢の眼科医、李文亭がWeChatで「市場でSARS肺炎のような患者が出ている」と述べました。

2019年12月31日には、武漢市健康衛生委員会が、すでに患者は退院すると述べました。この時点で、カナダの企業Blue DotのAIは、武漢でのコロナウイルス・アウトブレイクを予測し、さらに航空機発券データからバンコク・ソウル・台湾・東京に広がると分析して、顧客に警告しています。

2020年1月1日には、武漢地方政府は市場を閉鎖し、2020年1月3日にはデマを流したとして李文亭医師ら8人の医師を訓戒処分とします。

2020年1月5日の時点で肺炎患者は59名で、7名が重症でした。

中国CDCは、2020年12月31日の時点で、新型コロナウイルスの疑いを持ち、2020年1月7日には新型コロナウイルスであることを確証しました。

2020年1月10日に、上海復旦大学のYong-Zhen Zhang教授らのチームが新型コロナウイルスの全ゲノムを解析し、GEN BANKに公開しました。

2020年1月12日に中国CDCは、WHOに新型コロナウイルスの遺伝子情報を提供します。

2020年1月14日にWHOは中国での新型コロナウイルスの発生を記者会見

で発表しました。

2020 年 1 月 17 日土曜日に、アメリカ・パーデュー大学のアンドリュー・メスカー(Andrew Mesecar)は全ゲノム情報を受け取ると解析して、SARS に類似していることを発見しました。

SARS の際に活躍した鐘南山院士は、浙江省でも肺炎が発生したことを合わせて、政府に警告を発します。

2020 年 1 月 18 日日曜日に、鐘南山院士は、一人で高速列車に乗り、武漢に向かいました。

2020 年 1 月 19 日月曜日に、鐘南山院士は、武漢地方政府を相手にせず、現場の病院を視察し、ヒトーヒト感染など容易ならざる事態であることを認識し、そのまま北京に向かい、李克強副総理と面会し、1 月 20 日には習近平主席に報告があがり、緊急対策がはじまりました。

2020 年 1 月 21 日火曜日に、**習近平国家主席が、国家中医薬管理局に「新型コロナウイルス肺炎への中医学診療計画を研究提出する」**ように指示します。

2020 年 1 月 23 日木曜日に、武漢市は「閉鎖」されました。

【中医学の診療計画】

2020 年 1 月 22 日水曜日、武漢(ぶかん)のある「湖北省(こほくしょう)」が最初の中医学ガイドライン《湖北省新型冠状病毒感染的肺炎中医药防治方案（试行）》¹を発表しました。蒼朮(そうじゅつ)や金銀花(きんぎんか)、陳皮(ちんぴ)などを予防案として出しています。

2020 年 1 月 23 日木曜日、「雲南省(うんなんしょう)」のガイドライン《云南省新型冠状病毒感染的肺炎中医药防治方案（试行）》²では、「湿邪鬱肺」、「邪熱壅肺」、「邪毒閉肺」、「内閉外脱」という中医証型が早くも書かれていました。

2020 年 1 月 23 日木曜日、「陝西省(ちんせいしょう)」のガイドライン《陕西省新型冠状病毒感染的肺炎中医药预防方案》《陕西省新型冠状病毒感染的肺炎中医药治疗方案（试行第一版）》³はユニークで、食事療法による予防が書かれて

¹ 2020 年 1 月 23 日『湖北发布新型肺炎诊疗方案，含中医预防方案』

https://www.guancha.cn/politics/2020_01_23_532879.shtml

² 《云南省新型冠状病毒感染的肺炎中医药防治方案（试行）》

<https://new.qq.com/omn/20200125/20200125A05VB700.html>

³ 《陕西省新型冠状病毒感染的肺炎中医药预防方案》

《陕西省新型冠状病毒感染的肺炎中医药治疗方案（试行第一版）》

<http://news.hsw.cn/system/2020/0124/1149450.shtml>

おり、軽症に「甘露消毒丹(かんろしょうどくたん)」と「藿香生気散(かつこうしょうきさん)」が書かれています。回復期にも「竹葉石膏湯(ちくようせつこうとう)」や「麦味補中益気湯(ばくみほちゅうえっきとう)」を使っています。

2020年1月24日金曜日に国家中医药管理局は『新型コロナウイルス感染肺炎の診療計画(試行第3版)』『《新型冠状病毒感染的肺炎诊疗方案(试行第三版)》⁴を印刷し、中医学治療計画が公布します。なんと、1月21日火曜日に習近平主席よりの指示が出てから3日後です。これは驚異的なスピードといわざるをえないです。

以下、《新型冠状病毒感染的肺炎诊疗方案(试行第三版)》引用。

「基本的な病機の特徴は、**湿・熱・毒・瘀**である。」

基本病机特点为“湿、热、毒、瘀”；

『計画』は、新型コロナウイルス感染肺炎を**湿邪鬱肺、邪熱壅肺、邪毒閉肺、内閉外脱の4種類**の**中医弁証タイプ**に分類している」

《方案》将新型冠状病毒感染的肺炎分为湿邪郁肺、邪热壅肺、邪毒闭肺、内闭外脱等4类中医证型。

『**湿邪鬱肺**』の臨床表現は熱は低いか発熱しておらず、乾咳、少痰、咽乾咽痛、倦怠無力、胸悶、胃の痞え、嘔悪、便糖。淡白舌、あるいは淡紅舌、苔は白苔あるいは白膩苔、脈は濡脈。治法は化湿解毒、宣肺透邪。推奨処方**は麻杏薏甘湯、升降散、達原飲**です。」

湿邪郁肺临床表现为低热或未发热，干咳，少痰，咽干咽痛，倦怠乏力，胸闷，脘痞，或呕恶，便溏。舌质淡或淡红，苔白或白膩，脉濡。治法采用化湿解毒，宣肺透邪。推荐处方为麻杏薏甘汤、升降散、达原饮。

『**邪熱壅肺**』、発熱、口渴するが、飲もうせず、胸悶、咽乾少痰、食欲不振、大便はゆるい。舌尖紅、黄苔、脈浮数。治法は清熱解毒、宣肺透邪。推奨処方**は麻杏甘石湯、銀翹散**です。」

邪热壅肺临床表现为发热，口渴，不欲饮，胸闷，咽干少痰，纳差，大便不畅或便溏。舌边尖红，苔黄，脉浮数。治法采用清热解毒，宣肺透邪。推荐处方为麻杏石甘汤、银翹散。

⁴ 《新型冠状病毒感染的肺炎诊疗方案(试行第三版)》印发，公布中医治疗方案
http://www.xinhuanet.com/health/2020-01/24/c_1125499177.htm

『邪毒閉肺』高熱が下がらず、咳嗽は痰が少なく、あるいは黄色の痰がある、胸悶して呼吸促迫し、腹脹して便秘がある。紅舌、黄膩苔あるいは黄で乾燥し、脈は滑数。治法は宣肺解毒、通腑瀉熱であり推奨処方**は宣白承気湯、黄連解毒湯、解毒活血湯**です。」

邪毒閉肺的临床表现为高热不退，咳嗽痰少，或有黄痰，胸闷气促，腹胀便秘。舌质红，苔黄膩或黄燥，脉滑数。治法采用宣肺解毒，通腑泻热。推荐处方为宣白承气汤、黄连解毒汤、解毒活血汤。

『内閉外脱』精神昏迷、煩躁、胸腹灼熱、手足逆冷、呼吸促迫あるいは呼吸器補助を必要とする。舌質は紫絳、黄苔あるいは燥苔、脈は浮大にして無根。治法は開閉固脱、解毒救逆で推奨処方**は四逆加人参湯、安宮牛黄丸、紫雪丹**です。」

内閉外脱临床表现为神昏，烦躁，胸腹灼热，手足逆冷，呼吸急促或需要辅助通气。舌质紫絳，苔黄褐或燥，脉浮大无根。治法采用开闭固脱，解毒救逆。推荐处方为四逆加人参汤、安宫牛黄丸、紫雪散。

以上、引用終わり。

2020年1月25日土曜日に、北京中医医院の劉清泉先生が、武漢から帰られて、『寒湿疫』であるという報告⁵を行います。

以下、引用。

「私は新型コロナウイルス肺炎は中医学の『疫病』『湿瘟』の範疇であり、病因は、湿毒の邪気による病であると考える」

我认为，新型冠状病毒肺炎属于中医“疫病”“湿瘟”的范畴，其病因属性为“湿毒之邪”致病，核心病机是不会变。

「新型コロナウイルス肺炎の舌は、黄色や白色のどちらもあるが総じて厚膩苔であり、我々は武漢の気象を知っている。陰雨が降り、湿気が強くて冷えている。今年の冬は気温は高いですが、太陽はさしていない。患者の舌苔、脈象、症状から『湿』と判断した。湿は困脾して肺を閉ざし、気機の升降は失調し、湿毒が化熱し、陽明の腑実から湿毒瘀熱が内に閉じる」

新型冠状病毒肺炎的舌象，不管舌苔偏黄还是偏白，但总的呈厚膩苔。我们了解到武汉的气候状态，一个是阴雨，一个是湿冷。尽管较以往冬天，温度偏高一些，但

⁵ 2020年1月25日新华网

「武漢から帰ってきた北京中医医院の劉清泉院長が新型コロナウイルス肺炎について語る」

【实录】北京中医医院院长刘清泉武汉归来，谈新型冠状病毒肺炎
http://www.xinhuanet.com/health/2020-01/25/c_1125502180.htm

没有阳光。结合患者的舌苔、脉象、症状，我们判断其病因属性以“湿”为主，湿困脾闭肺，气机升降失司，湿毒化热、阳明腑实，湿毒瘀热内闭。

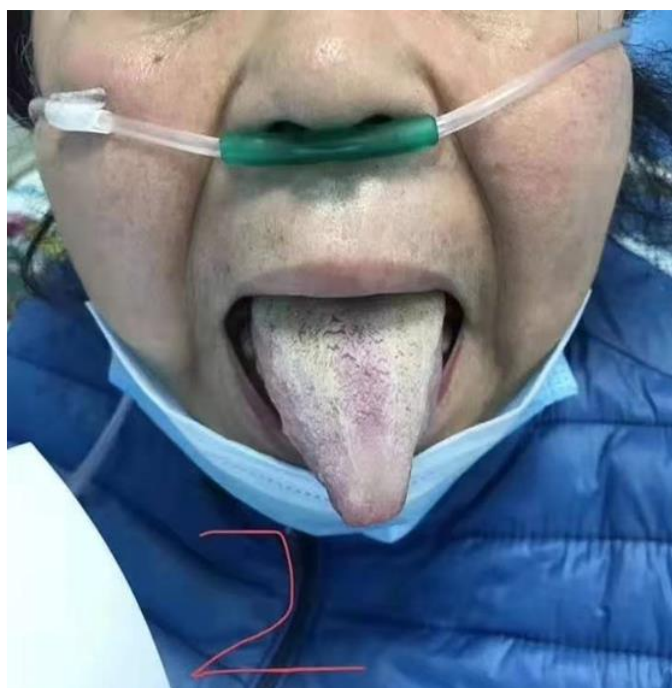
「新型コロナウイルス肺炎は『湿毒』が主であり、『熱毒挟湿』ではない。『熱毒挟湿』は清熱解毒に去湿法を加えてかまわない。熱毒が去れば、湿は自然となくなる。それに対して『湿毒化熱』『湿毒蘊熱』では、清熱解毒で寒涼の薬物を使用すると湿が悪化して治療効果に影響する。芳香化湿、芳香化濁避穢、透表散邪、升降脾胃、が治療の核心である。湿が化せば、鬱熱が散じて毒は無くなり、自然とゆっくりと消失する」

新型冠状病毒肺炎是以“湿毒”为主，并不是热毒夹湿。热毒夹湿证，用清热解毒加祛湿之法即可。热毒一清，湿自然就没了。对于湿毒化热、湿毒蕴热的情况下，如果贸然清热解毒，过早用上寒凉药物，必然会导致湿邪加重，会出现“冰伏”，反而影响治疗效果。所以，本病应该化湿为主，芳香化浊避秽，透表散邪，升降脾胃，这是我们治疗的核心。湿一化，郁热就散，毒也就没有了，症状自然就慢慢消失。

以上、引用終わり。

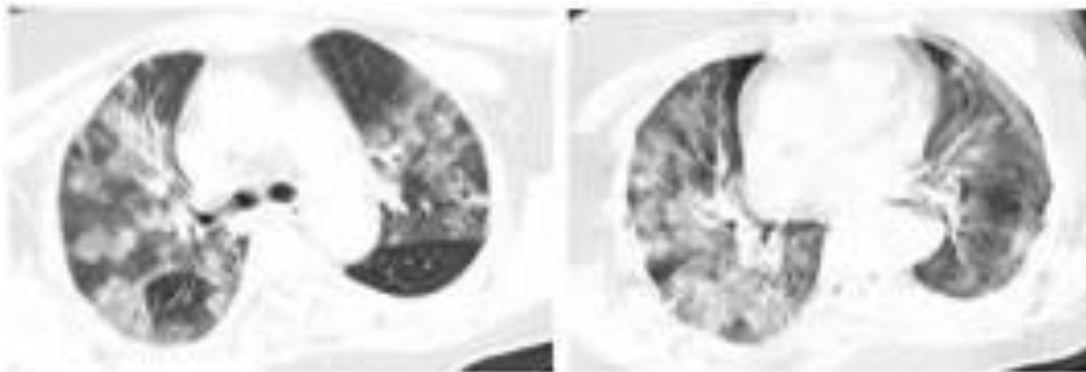
2020年1月25日土曜日に関西中医鍼灸研究会 講師の邵輝（しょうき）先生から「新型コロナウイルスは寒湿である」という舌写真が送られてきました。

写真：コロナウイルス患者の白膩苔

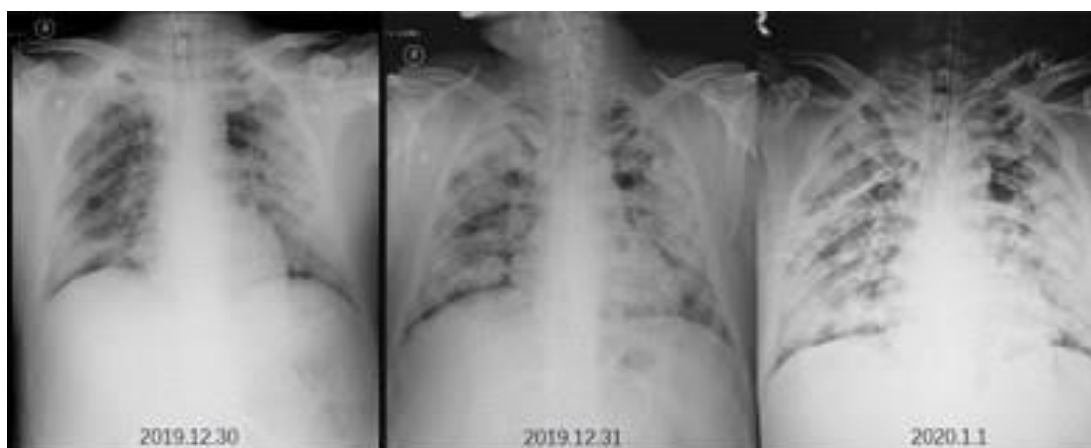


※舌の写真はいくつもありませんでしたが、いずれも膩苔でした。

写真：新型コロナウイルス肺炎のエックス線写真



写真：新型コロナウイルス肺炎のエックス線写真



写真：新型コロナウイルス肺炎の CT 写真



邵輝（しょうき）先生の談話 2020/1/30

「市場に近い湖北省中西医结合医院には 2019 年 12 月から患者さんが来ていました。東洋医学には「冬に寒くならないと疫病が流行しやすい」という言葉があります。中医師でもある同病院の医師が武漢の気温を調査したところ、12 月なのにずっと暖かくてなかなか気温が下がらず、最高気温が 17℃の日もありましたが、中頃から急に気温が落ち、いきなり病気が発症したことがわかりました。日本でも暖かい冬が続いているので、急に気温が落ちると注意が必要です。この医師は最初に 3 人の家族が咳で来院した時に「この咳は危うい」と感じ、ホテルに宿泊して帰宅しないようにしています。患者さんの咳は悪化して人工呼吸器を使用したとのことでした。

最初のころに来ていた新型肺炎の患者さんの症状は、軽い方は空咳があり、発熱はないか、あっても低いです。全身のだるさ、筋肉痛、頭痛があり、食欲はなく、目が赤く、白膩苔です。武漢の内科チームは痰湿と弁証し、漢方で効果があつたことを発表しています。咳があるから麻杏薏甘湯を使いました。麻杏甘石湯の咳を止めるのに加えて薏苡仁で利湿します。

ベタベタの膩苔なので湿です。舌の色は紫で、患者さんの菌型と膩苔はほとんどこういう感じです。一部の患者さんは呼吸困難で少し動いたら呼吸がさらにつらくなります。痰は少なく、白い痰と黄色い痰が両方出ています。

体がだるくて高熱でイライラして口が乾くような熱的な症状を持つ患者さんも出ており、その場合は麻杏甘石湯と甘露消毒丹を使用します。甘露消毒丹は利尿と解熱です。

治療後、ほとんどの患者さんは体のだるさは取れていないけれど、呼吸困難、発汗、口の渇きが大きく改善しました。ある程度安定すると竹葉石膏湯や王氏清暑益気湯（日本では清暑益気湯や補中益気湯）などの漢方を使い補気をしました。

その病院では同様の症状を持つ患者さんを何千人と診察し、一人、高齢の方が亡くなりましたが、他の患者さんは快方に向かっているとのことでした。大切なのは、効果を出すためには早く漢方を飲むということです。SARS と違って発症まで時間がありますのでウイルス陽性の診断が出る前に漢方を使います。

重症化すると肺はひどい炎症になり、割れたガラスのようになります。呼吸ができなくなり、かなり苦しいです。診断において、現場の医師は「早期はレントゲンを撮ってもあまり異常は出ないのでわからない」と言います。ウイルスチェック(PCR 検査)は時間がかかり、患者さんがある程度ウイルスを持っていて重症化してからなら検査はできますが、ウイルス量が少ない場合はなかなか診断できない部分があります。この場合はどうするかというと CT を参照します。

胸部レントゲンを撮っても何も異常は出ていませんが、CT では気管支のところが白くなっています。ある患者さんは発熱して空咳があり、CT を撮ったら

すでに肺の中に炎症がありましたが、軽い段階の肺炎なら治療が可能です。わかりにくい患者さんは早めに CT を撮って診断するのが一つの方法です。また、点滴をしたら逆に悪化しているとのことでした。

※CT は AI で活用されています。

日経ビジネス「中国企業、AI で新型コロナウイルスによる肺炎を判定」2/12 を要約すると

中国の医療系 AI（人工知能）スタートアップ企業、インファージョン（北京市）が新型コロナウイルスの感染による肺炎かどうかを迅速に判定する AI を開発した。所要時間は 1 分。同社はこれまでも AI による肺の画像診断支援システムを提供してきた実績があるという。中略

今回の新型肺炎は、肺の下部で起きるため、鼻や喉にウイルスがなかなか到達しないとされる。これが PCR テストキットでの判定を難しくしている。インファージョンが開発した AI システムは、肺の CT（コンピューター断層撮影装置）画像から新型肺炎の有無を特定できるので、初期症状の患者であっても確実に診断できるようになる。画像から重症レベルも同時に割り出せるという。CT 画像を撮影するには数分かかるが、肺の CT 画像があれば 1 分で判定するので医師が診断する時間の短縮も見込める。中略

武漢市の病院が 1 月 29 日にこの AI システムを導入、同 31 日から稼働させている。医療用のプログラムとして正式な承認はまだ受けていないが、中国政府もこの CT 画像を活用した AI 検査が役に立つと発表。2 月 7 日時点で中国全土で 10 の病院が政府の特別な許可を得て AI システムを導入している。うち武漢では 3 つの病院で使っているという。以上 記事から

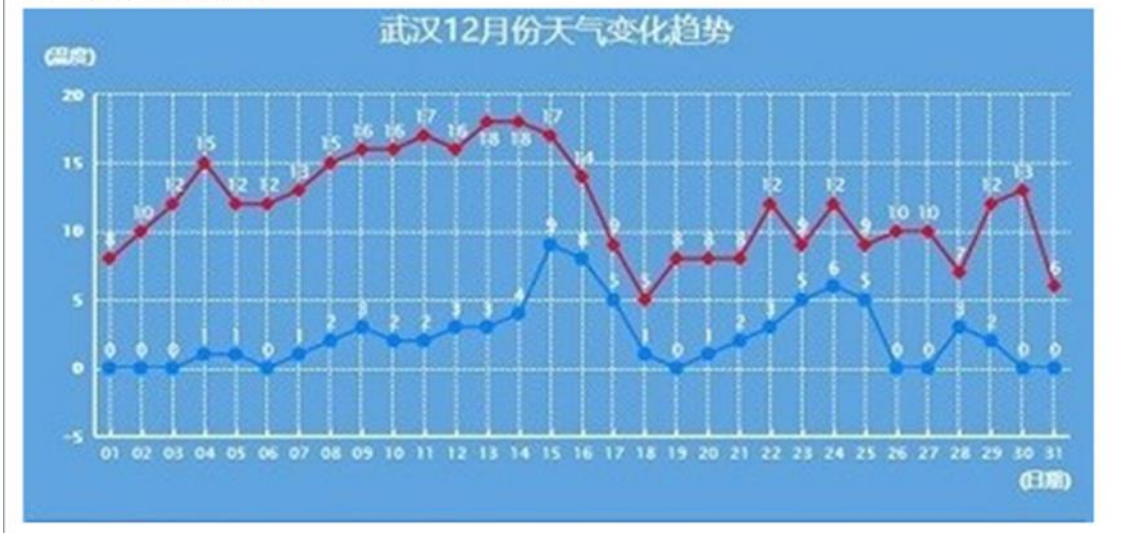
日本経済新聞 3/5 朝刊に「ノーリツ鋼機系、感染判定に AI 活用 新型コロナ、中国企業と研究」という記事が掲載されていました。上記 AI システムの日本での研究も始まっています。

発症を防ぐには体内のウイルス量を増やさないことが大前提です。

中医学的に寒湿なので葛根湯と藿香正气散がよいです。今回は下痢の方が多かったから藿香正气散の方がよいです。あたためて湿を取る薬で、日本ではカッコーサン N「コタロー」という薬があります。

銀翹散と板藍根も選択肢の一つで、銀翹散は葛根湯と藿香正气散をあわせたものに似ています。

図：武漢の気温変化



葛根湯はなぜ効くのかというのと体の中の免疫反応を抑えるからです。ウイルスの病気だから免疫力を高くした方がいいと思われるかもしれませんが、逆の面もあります。つまり、これまで新型コロナウイルスと接触したことがないので、ウイルスと接触すると体はパニック状態になり、激しく反応しすぎて免疫が自分自身の肺の細胞も壊してしまい、線維化して呼吸ができなくなります。そういう時に葛根湯を飲んでいると、本格的にウイルスが増えた時に過剰反応が出ないように働きます。新型コロナウイルスの場合は免疫力を上げすぎたら逆に悪くなります。この部分も漢方の利点です。

※サイトカインストームの説明です。

寒気がして軽い咳がある時は麻杏甘石湯、麻杏薏甘湯を使います。寒気がある時は麻黄湯です。発熱したら白虎加人参湯や小柴胡湯を使います。治癒後は補中益気湯、清暑益気湯を使います。早期に漢方を使用することで中西医结合医院では何千人という患者さんのうち一人しか死亡者がいないという成果をあげています。ただ、漢方は証によりますので、専門家の判断のもとで使用してください。

肺炎の時は紅景天と一緒に使うとよいです。舌診で舌が紫になっているのは酸素が足りないからです。肺炎になってサチュレーションが 90%以下になることが今、診断基準の一つになっています。SARS 流行時は温灸が一大ブームになりましたが、新型肺炎は寒証なので大椎や中府を中心に温灸で体をあたためるのはとてもよいです。また、痰湿にはネギ、ショウガ、お酒で発汗するとよいです。他の予防策として、体内のウイルス量を増やさないという観点から、今回の新型肺炎ウイルスは飛沫感染なので、患者さんはマスクをつけてウイルスの拡散を減らします。マスクは同じものをずっとつけていると逆にうつりやすくな

るので、4 時間以内に新しいものに交換します。使用済みマスクは基本的に家でなく外で焼却します。※日本ではマスクは焼却ではなく袋に密閉して捨ててください。

結膜からも感染するので、眼鏡をかけるとよいです。帰宅後はうがいと手洗いをし、シャワーを浴び、服を着替えて、外で着ていた服は家の中で着る服とは別にしておきます。部屋は換気をして空気の流れをよくしておきます。

患者さんが来た時はあまり症状が出ていませんが、空咳や呼吸困難があります。今回、武漢で起きていることとよく似たことが日本でも起こっています。去年の秋、日本では咳をする人が多かったですが、武漢でも同様に秋に咳をする人が多かったです。だから今、もしかしたら 11 月から流行っていたのではないかと疑われています。ただ、その時はまだ重症化しておらず、急に寒くなったことで広まっています。今回のウイルスは少し不思議で気温が関係しています。日本でも気温が下がると発症する可能性があります。スーパースプレッダーが出ることも懸念されます。」

以上、ドクター・ショウキ・オフィシャル・ブログ⁶

↑

葛根湯による予防という戦略は個人的に採用しました。葛根湯は、邵輝（しょうき）先生の盟友であるアビガンの開発者、白木公康先生が「葛根湯はサイトカインストームを予防する」という研究⁷を発表されています。

2020 年 1 月 24 日金曜日に国家中医薬管理局は『新型コロナウイルス感染肺炎の診療計画（試行第 3 版）』『新型冠状病毒感染肺炎诊疗方案（试行第三版）』を出版していました。

2020 年 1 月 27 日月曜日に、国家中医薬管理局は、『新型冠状病毒感染肺炎诊疗方案（试行第四版）』を出版し、このスピードには驚愕しました・・・。

第 4 版では、弁証が変わっています。

- (1) 初期：寒湿鬱肺
- (2) 中期：疫毒閉肺
- (3) 重症期：内閉外脱

⁶ <http://shawkea-dr.net/2020/01/30/post-1903/?fbclid=IwAR3bMjtxdJD25W7AgFl5h47SutSkS09eqB47-fG3gwDO6MKTpra0S6L-zqM>

⁷ 「現代西洋医学からみた東洋医学(5)インフルエンザ治療のための漢方薬の作用機構--葛根湯の作用機序」白木公康『医学のあゆみ』 202(6・7), 414-418, 2002-08-17
<https://ci.nii.ac.jp/naid/40005409331>
「葛根湯に含まれるシンナミル関連化合物のサイトカイン産生調節機序の解析：炎症(2)」白木公康 et al.『和漢医薬学雑誌』 17(supplement), 38, 2000
<https://ci.nii.ac.jp/naid/110001867695>

（4）回復期：肺脾氣虛

以下、引用。

「【脾胃を注意して調整しよう】」

注意調理脾胃

「病気の性質を知ることが非常に重要です。新型コロナウイルス感染肺炎は『寒湿瘟疫』です。と、全小林(tóng xiǎo lín)は述べた。武漢は冷たい雨がえんえんと降り、資料によれば、12月はいんえんと冷たい雨が降っていた。1月から16日連続で小雨が降って、湿気は非常に重くなっている」

「搞清楚病的性質非常重要。新型冠狀病毒感染的肺炎當屬『寒濕（瘟）疫』，是感受寒濕疫毒而發病。」全小林說，「我們除夕那天晚上到武漢時就是陰雨連綿，查資料發現武漢12月份也是陰雨綿綿，一月份以來差不多連續16天都是小雨，濕氣非常重。」

「発病時の症状や状況、症状の変化などを調べ、舌苔と脈象の変化進行を詳細に観察した。ICUの危篤の病人はもちろん、普通病棟の軽症患者も、舌苔は黄色かったり白かったりするが、総じて『厚膩苔』をあらわしており、湿濁の象が非常に重い。」

發病時的症狀情況以及病情演變、舌苔和脈象的變化進行了詳細診察，發現無論是住在ICU的危重症病人，還是普通病房的輕症患者，不管舌苔偏黃還是偏白，總的呈現厚膩腐苔，濕濁之象非常重。」

「専門家グループがみると、大量の患者が脾胃の症状があり、典型的には、からだがダルくて倦怠感があり、食欲不振で、悪心・嘔吐があり、お腹がつまって張り、下痢や便秘がある」

通過問診，專家組發現大多數患者有脾胃症狀，而且非常典型，如周身倦怠乏力，食欲不好，噁心、嘔吐，脘痞脹滿，腹瀉或便秘等

「【中医治療計画】」

中醫治療方案

「臨床表現では、力がでなくて胃腸が良くないなら、藿香正気散。力が出なくて発熱を伴うなら 金花清感顆粒、連花清瘟膠囊（顆粒）、疏風解毒膠囊（顆粒）、防風通聖丸（顆粒）を服用する」

對臨床表現「乏力伴胃腸不適」的，可服用藿香正氣膠囊（丸、水、口服液）；對「乏力伴發熱」的，可服用金花清感顆粒、連花清瘟膠囊（顆粒）、疏風解毒膠囊

(顆粒)、防風通聖丸(顆粒)。

「全小林(tóng xiǎo lín)は、苦寒薬を使うのは慎重にして、患者は寒涼の性質の飲食を避け、温熱の性質があるものを飲食する」

全小林提醒、應慎用苦寒薬、患者飲食要避免寒涼、食用温熱飲食。

「全小林(tóng xiǎo lín)が言うには、伝統的な漢方以外にも、中医学には簡単に試せる方法があります。神闕(CV8)・関元(CV4)・氣海(CV6)・足三里(ST36)などの穴位に灸して、温陽散寒除湿して、脾胃を調え、免疫力をアップさせます」
全小林説、除了服用中藥，中醫還有一些簡單的治療方法可以試用，如艾灸神闕、關元、氣海、胃脘、足三里等穴位，可以溫陽散寒除濕、調理脾胃，提高免疫功能。
以上、引用終わり。

↑

全小林(tóng xiǎo lín)院士は、SARS の漢方治療で伝説的な人物であり、日本の『中医臨床』でも SARS やその後遺症の治療でインタビュー⁸を受けられています。

※1/30 世話人 藤井正道も初期の配穴を考えてみました。

神闕(CV8)箱灸か塩灸 曲池(LI11) 足三里(ST36)に鍼か灸、それから膈俞脾俞に鍼か灸。湿邪をとるにはやはり膀胱経を使った方がいいでしょう。咳が少ないなら命門(GV4) 中樞(GV7) 至陽(GV9)あたりに督脈通陽法、胸痛や胸の苦しさには至陽(GV9)に鍼や灸です。隔離室という条件を考えると、灸は電子温灸器になるでしょう。膈俞 脾俞は生姜パックもいいと思います。隔離された空間でも使えます。(隔離室での棒灸は難しいかと考えていましたが、その後 棒灸で感染した患者を治療する動画が次々にネットに公開されています。)

2020年2月3日に『新型コロナウイルス感染肺炎の診療計画(試行第5版)』
《新型冠状病毒感染的肺炎诊疗方案(试行第五版)》が改訂・出版されました。

1.医学观察期

临床表现 1: 乏力伴胃肠不适推荐中成药: 藿香正气胶囊(丸、水、口服液)

临床表现 2: 乏力伴发热推荐中成药: 金花清感颗粒、连花清瘟胶囊(颗粒)、疏风解毒胶囊(颗粒)、防风通圣丸(颗粒)

2.临床治疗期

(1) 初期: 寒湿郁肺

⁸「全小林教授にきく／SARS 治療におけるステロイド剤と中医学」
『中医臨床』 通巻 97 号 (Vol.25 No.2) 2004 年 6 月

- (2) 中期：疫毒闭肺
- (3) 重症期：内闭外脱
- (4) 恢复期：肺脾气虚

ちょうど、2020年2月1日にダイヤモンド・プリンセス号で新型コロナウイルス肺炎患者が発生し、2月3日に横浜に寄港します。

2020年2月4日には、中西医結合による新型コロナウイルス肺炎の研究⁹が始動します。全小林(tóng xiǎo lín)院士と劉清泉先生がリーダーです。

2020年2月7日には、国家中医薬管理局が「清肺排毒湯(せいはいはいどくとう)」を推奨¹⁰します。

2020年2月9日には、中国鍼灸学会が、『新型コロナウイルス肺炎の鍼灸の予防指導意見(第1版)』《新型冠状病毒肺炎针灸干预的指导意见(第一版)》を発表しました。

「疑い例」には、足三里(ST36)、気海(CV6)、中脘(CV12)。

「軽症」には、合谷(LI4)、太衝(LR3)、足三里(ST36)、神闕(CV8)。

「回復期」には、大椎(GV14)、膈腧(BL17)、足三里(ST36)、孔最(LU6)。

いずれも棒灸となります。

2020年2月10日には、鐘南山院士が驚愕の論文を発表されました。潜伏期間は最長 21 日間におよび、43.8 パーセントが発熱していなかったということです。このあたりから、新型コロナウイルス肺炎がかなり厄介であることが認識されてきました。

↓

2020年2月10日 MedRxiv

⁹ 2020年2月4日

「新型コロナウイルスの中西医結合による治療の臨床研究が正式に始動しました」

中西医结合防治新型冠状病毒临床研究正式启动

http://www.stdaily.com/zhuanti/fyywbd/2020-02/04/content_861450.shtml?fbclid=IwAR2G-QLqFRMdVCY69nHT_BFKmHK5C7L6oFsum4VYUL9hvVXu7NEzfDw_Uo

¹⁰ 2020年2月7日『新華網』

「中西医结合で、新型コロナウイルス肺炎を救うには『清肺排毒湯』の使用を推奨します」

中西医结合救治新冠肺炎推荐使用“清肺排毒汤”

http://www.xinhuanet.com/health/2020-02/07/c_1125542928.htm?fbclid=IwAR24odhvyS3Z7d7javSxeT1I8OmZ1Jp6cHNnlKH2a12osG-OS5Sfdso_0hY

「中国での 2019 新型コロナウイルス感染症の臨床的特徴」

Clinical characteristics of 2019 novel coronavirus infection in China

Nan-shan Zhong (鐘南山) et al.

以下、引用。

「特筆すべきは、初期症状の患者の 43.8%にのみ発熱が起こり、87.9%は入院したということである。新型コロナウイルスにおける(初期の)発熱の欠如は、SARS コロナウイルスやMERS 中東呼吸器症候群コロナウイルスの発熱の欠如と比較して顕著である」

以上、引用終わり。

さらに、この時期から RT—PCR 検査の感度が低いことが問題とされてきました。武漢での患者の 41 パーセントが院内感染であることも判明しました。

2020 年 2 月 14 日には、武漢の『方艙病院』が中医学専門病院として、転鍼中医薬大学の張伯礼院士をリーダーとしてスタートしました。全国から集まった 209 人の中医学の呼吸器専門家たちが、5,620 人の軽症だが隔離された患者に中西医結合治療をおこない、リハビリに太極拳や八段錦を指導しました。

2020 年 2 月 14 日には、湖北省は、CT のみの臨床的診断や疑い例、軽症に対しての中薬処方『肺炎 1 号¹¹』を使い始めました。柴胡陷胸湯と達原飲をもとに和解少陽を目的にした方剤です。

このあたりから、中医薬は、軽症・疑い例・臨床的診断の患者を減らす戦略を強く打ち出します。

※「方艙医院」は 3 月 10 日に閉鎖

武漢の軽症者用の臨時医療施設「方艙医院」が 3 月 10 日にすべて閉鎖されました。16 か所の「方艙医院」では軽症の新型コロナウイルス肺炎の軽症患者 1 万 2 千人が治療を受け、重症化を防いだといわれています。「方艙医院」は体育館や展示施設にベットを運び込んでつくられた臨時施設です。広い範囲で空気の流れを遮断して交差感染が発生しないようにするため、施設内のセントラル空調はすべて使用が停止されていて、個別の暖房器具で寒さをしのいだといいます。漢方薬や鍼灸、体操、気功なども行われ軽症者が重症化しないよう治療が行われました。

¹¹ 2020 年 2 月 14 日

「湖北省中医院薬方『肺炎 1 号』が正式に公布された」

湖北省中医院药方“肺炎 1 号”正式公布

https://www.guancha.cn/politics/2020_02_14_536334.shtml?fbclid=IwAR27pL9StdYvh7rxfUpSZ1zm1HQxL6zWunrkOrw-do-dX4JxZ1VGcLDYRqY

2020年2月16日には、《新型冠状病毒肺炎诊疗方案(试行第六版)》が公布されました。エアロゾル感染が認められ、中医学では「清肺排毒湯(清肺排毒汤)」が加わりました。

『清肺排毒湯』は、701例の新型コロナウイルス肺炎の確定診断症例に用いられて、130例が治癒退院し、51例の症状が消失し、268例の症状が改善しているそうです。

国医大師の「薛伯寿(せつはくじゅ：薛伯寿：Xuē bó shòu：1936ー)」先生は、江蘇省(こうそしょう：江苏省：Jiāngsū Shěng)出身で、名著『中医症候鑑別診断学(中医证候鉴别诊断学)』の編者です！

1963年から1975年にかけて、

「蒲輔周(がほしゅう：蒲輔周：Pú fǔ zhōu：1888ー1975)」先生に直接学んだ弟子であり『蒲輔周医案(蒲輔周医案)』の編者でもあります。「蒲輔周(がほしゅう：蒲輔周：pú fǔ zhōu：1888ー1975)」先生は、1888年の清代の四川省の医師の家に生まれ、15歳の頃から医術を学び、1945年に四川省で麻疹が大流行した際に治療で活躍し、さらに1956年に石家で日本脳炎が大流行した際に郭可明(1902-1968)先生と共に温病の「暑温」と弁証して、白虎湯と清瘟敗毒飲を用いて、多くを治療して、政府の信頼を得ました。

以下、引用。

「王永炎院士は、伝染性新型コロナウイルス肺炎は寒湿疫としており、麻黄附子細辛湯(まおうぶしさいしんとう)に桂枝を加えて芍薬を去る処方を提唱している。全小林院士は、武漢の最前線に滞在し、テレビインタビューでは新型コロナウイルス肺炎を寒湿疫と分析している」

「わたしは、王永炎院士に同意する。傷寒論は、寒湿疫の激しいものを治療することを主題としている。わたしは寒湿疫とみなせば、必ず、『麻黄(まおう)』をよく用いる。『麻黄』は宣肺透邪し、表閉を開き、肺閉を開き、肺の間質の鬱飲を消散させ、麻黄は宣肺の要薬であり、麻黄は利小便する去湿の聖薬であり、麻黄は寒凝血脈瘀滞を宣通させる聖薬であり、それゆえに寒湿疫なら必ず麻黄を用いるのである。歴代医学経験の積み重ねによれば、先師である蒲輔周先生は傷寒・温病・瘟疫の学術経験に通じて、傷寒論の六経弁証と融合して運用した。柴胡桂枝湯は小柴胡湯と桂枝湯の合方である。わたしは完全に王永炎院士が麻黄附子細辛湯合桂枝去芍薬で重症を治療するのに合意するものである。」

「新型コロナウイルス肺炎を清肺敗毒湯で治療する。張仲景の経方と新運用の融合である。この処方麻黄湯と五苓散を巧妙に組み合わせている。寒閉を去り、

利小便して去湿する。五苓散は麻黄桂枝の発汗を抑え、桂枝甘草の辛甘は化陽扶正する。苓姜朮甘は健脾化飲する。新型コロナウイルス肺炎は胸閉し呼吸困難となるが、肺閉不宣であり、さらに喘咳が重なるなら、射干麻黄湯(しゃかんまおうとう)および橘皮枳実生姜湯(きっぴきじつしょうきょうとう)、小柴胡湯は少陽病で半表半裏のものの、三焦を通利することで、邪気が裏に入るのを予防する。また、肝を調え、脾胃を和し、消化機能を保護する。藿香は芳香化湿し、石膏は鬱熱の化熱に用いる。」

以上、引用終わり。

※清肺排毒湯（適用範囲：軽症、通常型、重症、重篤の患者に状況に合わせて使用とされています）

基本方剤：麻黄 9g 炙甘草 6g 杏仁 9g 生石膏 15～30g（先煎） 桂枝 9g 沢瀉 9g 猪苓 9g 白朮 9g 茯苓 15g 柴胡 16g 黄芩 6g 姜半夏 9g 生姜 9g 紫苑 9g 冬花 9g 射干 9g 細辛 6g 山藥 12g 枳実 6g 陳皮 6g 藿香 9g

日本では同じものを薬局などで処方してもらうことは薬事法から無理です。

日本感染症学会に金沢大学の小川 恵子先生が「COVID-19 感染症に対する漢方治療の考え方」という論文を発表されました。中国の診療ガイドラインに掲載されている生薬の処方を日本で手に入るエキス剤に置き換え、日本人向けにしたものです。

COVID-19 感染症に対する漢方治療の考え方

金沢大学附属病院漢方医学科 小川 恵子先生

http://www.kansensho.or.jp/uploads/files/news/gakkai/covid19_kanpou_0319.pdf

2020年2月20日には、院士である王永炎先生が五運六気理論で、春節あたりに疫病が発生すると予測していたことが大きく報道されます。

2020年2月20日

「王永炎院士は、半年前に『瘟疫』が発生するのを予測していた」

王永炎院士半年前预测“瘟疫”要发生

<https://posts.careerengine.us/p/5e4e70dc42c5885939beb64a>

↑

王永炎(wáng yǒng yán : 1938-)先生は、『臨床中医内科学』の著者であり、中国科学院の『院士(博士より上のアカデミー会員で、飛行機や特急では特別扱いされる)』です。

以下、引用。

「2019 年の夏に、中国中医科学院での会議で、中国工程院の王永炎先生は、2020 年春季に瘟疫が発生すると予測して警告していた」

2019 年夏季，中国中医科学院会议上，中国工程院王永炎院士提出了 2020 年春季要有瘟疫发生的预测警示。

以上、引用終わり。

これは、2019 年 6 月 27 日の「中国中医科学院组建多学科协作的中医药防治流感技术体系」という会議の席上です。

↓

2019 年 7 月 5 日「中国中医科学院」

中国中医科学院组建多学科协作的中医药防治流感技术体系

以下、引用。

「(王永炎先生の発言)天地の象を観察し、萬物の生霊の象を観て、疾病健康の象を観る。そして、今年、長江以南で、大雨が災害を引き起こした。厥陰風木が司天であり、今年の前半は、比較的、おだやかであるが、今年の後半は特別であり、冬至前後から翌年の春(春節＝旧正月)にかけて、瘟疫が発生する。これは中医薬の方老師(方藥中：方药中)の学説であり、方藥中老師は重視している。(『黄帝内経』の)陰陽大論や運氣七篇学説は明確である。われわれは、五運六氣の研究方面の第一人者である安徽省の顧植山先生を中国中医科学院に招聘しましょう。」
“要观天地之象，观万物生灵之象，观疾病健康之象。所以，今年大江以南，暴雨成灾。厥阴风木司天，已经描述了太虚元象。上半年，是比较和缓的。下半年，特别是在冬至前后，也就是连续到明年的春季，要有瘟疫发生。这也是方药中老师的学说，方老师很重视。阴阳大论，七篇运气学说，对于这个要清楚，目前我们院（指“中国中医科学院”）应该聘用顾植山先生，顾植山先生在安徽，他是在“五运六气”的研究方面很有造诣的一位。

以上、引用終わり。

↓

2020 年 2 月 20 日

『顧植山：五運六氣による新型コロナウイルス肺炎の治療の解析』

顾植山：从五运六气解析新冠肺炎及其治疗

https://www.medsci.cn/article/show_article.do...

以下、引用。

『梅斯医学（MedSci）編集部 の注釈：これは後付けではありません。2019 年春に顧植山は、2019 年冬至から 2020 年春節にかけて、瘟疫が発生すると予測していました』

【梅斯医学小编注：这不是事后诸葛亮，在 2019 年春天，顾植山就预测 2019 年冬至至 2020 年春节会有瘟疫发生】

以上、引用終わり。

2020 年 2 月 18 日に発表された王永炎先生の論文は、まさに弁証論治のこの時代の代表といえます。

↓

「寒疫からの新型コロナウイルス(2019-nCoV)感染肺炎の分析」

试析从寒疫论治新型冠状病毒（2019-nCoV）感染的肺炎

范逸品，王燕平，张华敏，王永炎

《中医杂志》

https://www.medsci.cn/article/show_article.do...

以下、引用。

「2019 年 7 月 20 日から 11 月にかけて、武漢は、気温が平均よりも高く、武漢はこの 40 年で最悪の干ばつにおそわれた。2019 年 11 月の武漢の特徴として、平均降水量は 2 割と少なく、乾燥して気温が上下し、天気の変化が大きかった。」
2019 年 7 月 20 日以来至 11 月底，以武汉为首的鄂东区域气温较常年同期偏高，造成该区域发生近 40 年来最为严重的伏秋连旱。2019 年 11 月份武汉区域总体天色特点：平均降水量偏少 2 成，燥湿寒温升沉，天色改变较大。

「武漢の 11 月中旬から下旬の前は、長時間、天気は乾燥して、突然に空気は冷たくなり、寒くなった。その後、12 月 1 日に第 1 例の肺炎患者があらわれた。」
武汉 11 月份中下旬之前，长时间的天气温燥，骤然碰着强冷空气，即暴寒。其后，12 月 1 日展现第一例肺炎患者

「12 月上旬から中旬の天気は暖かく、暖冬であるように思えたが、その後、気温が下降して、12 月下旬に降雨が増えて、1 月の気温は高く湿度が高かった。湿度が高く、寒く、天気は寒く湿気がつよかったので、これが寒湿疫の前提となった。」

12 月上中旬天色温热，为少见暖冬，后背气温下降，尤其是 12 月下旬往后，降雨增多，1 月份气温高而湿度大，湿大于寒，天色凸显阴冷湿寒特点，以上都相符历代文献中寒疫的发生前提。

「清代の医家、喻昌(1585-1664)は『医門法律』で『秋に燥邪に傷つけられると、冬に咳嗽になる』と述べている。」

清代医家喻昌在《医门司法·卷五》言：“秋伤于燥，冬生咳嗽。”

「乾咳は、新型コロナウイルス肺炎の最初の徴候です」
干咳为本病首要示意。

「この他に、中医学の五運六気では『三年化疫』の理論があり、3年前は2017年の丁酉(ひのと・とり)である。」

此外，从中医的五运六气的“三年化疫”理论看，三年前是2017丁酉年

「丁酉は陽明燥金司天であり、その年の冬の天気は、乾燥が著しかった。3年後に『伏邪』『伏燥』として影響し、上述の報道では、大部分は痰が少なく、乾燥した咳であり、咽喉の乾燥や咽痛などの症状は『伏燥』と符合している。」

丁酉年是阳明燥金司天，该年秋冬季天色燥象较著，故其影响三年后的“伏邪”是伏燥，上述报道的大部门病例干咳少痰、咽干咽痛等首要症状都与伏燥相符。

「新型コロナウイルスの病位はまず肺であり、その次は体表の衛気と脾胃である(それで悪心・嘔吐・下痢となる)。」

本病首要病位在肺，其次病位在表卫、脾胃。

「これらの症状から、肺は乾燥して、脾胃は湿邪があり、この疫毒は温燥と寒湿が同時に存在している。同時に多数の患者が無力感を訴え、これは毒邪が正気が損傷しているためであり、この他、毒邪が閉阻し、気機の升降に障害があり、血瘀となる。新型コロナウイルス肺炎は寒熱が混じり、燥湿が錯雑し、虚实が同時に並行してみられる病理特性があり、毒・燥・湿・寒・虚・瘀の特徴がある。」
诠释病程中光鲜存在肺燥和脾湿，这是因为疫毒同化温燥和湿寒所致。同时多数患者初起乏力，是毒邪随意危险正气的示意。此外，毒邪闭阻，气机升降收支障碍，随意导致血瘀。所以本次新型冠状病毒（2019-nCoV）肺炎示意为寒热同化，燥湿错综，虚实并见的病理性质，病机特点是“毒、燥、湿、寒、虚、瘀”，炎症与呼吸拮据并存。

「【『伏燥』の病因に注意すること】」

要留意“伏燥”的病因

「燥邪は複雑であり、清代の医家である吳鞠通は秋燥の気は、軽ければ燥であり、重ければ寒となり、化気すれば湿となり、復気すれば火となると論じている」
燥邪特点较为复杂，清代医家吴鞠通认为“秋燥之气，轻则为燥，重则为寒，化气

为湿，复气为火。”

「燥邪は六淫の一つであり、秋の季節ですが、温燥の天気が冬まで続くのは冬温です。元代の医家、羅謙甫が『冬温の本質は、秋燥の余気である』と述べています。」

燥为六淫之一，虽为秋季时令，但温燥天色迁延至冬，则为冬温。所以元代医家罗谦甫认为“冬温本秋燥之余气”。

以上、引用終わり。

2020年2月22日に、中国政府の国家中医薬管理局による『新型コロナウイルス肺炎回復期の中医リハビリテーション指導提案(試行)』が出版されました。



江西省の病院での棒灸治療

国家卫生健康委员会办公厅和国家中医药管理局办公室日前印发《新型冠状病毒肺炎恢复期中医康复指导建议(试行)》

「耳穴圧法」や、「刮痧(かっさ)」、「拔罐(ぼっかん)」など、さまざまな治療法の記述がありました。

以下、引用。

「(一)艾灸療法：常用選穴：大椎、肺俞、上脘、中脘、膈俞、足三里、孔最など。
(一)艾灸療法 常用选穴：大椎、肺俞、上脘、中脘、膈俞、足三里、孔最等。

「(二)経穴推拿：穴位按摩：太淵、膻中、中府、肺俞、腎俞、大腸俞、列欠、中脘、足三里など。咳嗽、のどの痒み、乾咳のものは少商と尺沢を加える。」

(二)经穴推拿： 穴位按摩：太淵、膻中、中府、肺俞、腎俞、大腸俞、列缺、中脘、足三里等，咳嗽、咽痒、干咳者，可加少商、尺泽等。

「経絡推拿：手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、任脈・督脈など」

经络推拿：手太阴肺经、手阳明大肠经、足阳明胃经、足太阴脾经、任脉、督脉等。

「(三)耳穴压豆：」



江西省の病院での棒灸治療

(三)耳穴压豆：常用耳穴：支气管、肺、内分泌、神门、枕、脾、胃、大肠、交感等。

「(四)刮痧：手太陰肺經、手陽明大腸經、足太陽膀胱經など」

(四)刮痧：手太陰肺经、手阳明大肠经、足太阳膀胱经等。

「(五)拔罐：背部俞穴が主であり、肺俞、膏肓、脾俞、腎俞、大椎などを用いる。」

(五)拔罐：背腧穴为主，如肺俞、膏肓、江西省の病院での棒灸治療 脾俞、腎俞、大椎等。

「(六)針刺療法：常用選穴：大淵、曲池、肺俞、足三里、陰陵泉、関元など。」

(六)针刺疗法 常用选穴：太渊、曲池、肺俞、足三里、阴陵泉、关元等。

「随証配穴：倦怠感・寒がり・淡白舌は膈俞・腎俞・大腸俞を加える。大便が緩い・淡白舌は中脘、天枢を加える。咳嗽・痰・淡白舌には大椎あるいは定喘・膏肓を加える。」

随症配穴：乏力、怕冷、舌淡者，可加膈俞、腎俞、大腸俞；食欲差、大便稀溏、舌淡者，可加中脘、天枢；咳嗽、咳痰、舌淡者，可加大椎或定喘、膏肓等。

さらに、

「五行音楽療法(五行音乐疗法)」は、五行と対応した「五音(ごおん：五音：wǔ yīn)」を使います。

肝臓：「角音(jué yīn)」

心臓：「徵音(zhǐ yīn)」

脾臓：「宮音(gōng yīn)」

肺臓：「商音(shāng yīn)」

腎臓：「羽音(yǔ yīn)」

伝統気功法として、

- (1)八段錦(はちだんきん：八段锦：bā duàn jǐn)、
- (2)太極拳(たいきょくけん：太极拳：tài jí quán)、
- (3)六字訣(ろくじけつ：六字诀：liù zì jué)が推奨されています。

魏晉南北朝の陶弘景(とうこうけい：陶弘景：táo hóng jǐng：456-536)が著した『養性延命録(ようせいえんめいろく：养性延命录：yǎng xìng yán mìng lù)』という文献に、音の気功である「六字訣(ろくじけつ：六字诀：liù zì jué)」が初出しています。これは、それぞれの音が五臓と三焦に対応しています。

肝臓：嘘(xū)

心臓：呵(hē)

脾臓：呼(hū)

肺臓：呬(xì)

腎臓：吹(chuī)

三焦：嘻(xī)

2020年2月23日には中西医結合の研究結果が報道されました。

↓

2020年2月23日マレーシアの新聞『星洲日報』

「中西医結合治療の効果は良い：臨床治癒率は33%増加した」

中西医结合疗效佳·临床治愈率提高33%

以下、引用。

「中国中医薬管理局のデータは、新型コロナウイルス肺炎の確定診断症例6万症例以上に効果があったことを示しています。最近開示された臨床診療データは、新しい冠状肺炎の治療のための中西医結合治療の効果が良いことを示しています。」

「湖北省での記者会見で、中国中医薬局の共産党書記副局長の余絶は、張伯礼(ちょうはくれい：张伯礼：zhāng bó lǐ)・劉清泉教授は、武漢の102例の臨床対照試験で、軽症患者の中西医結合治療は、臨床症状の消失を2日間短縮し、体温を正常にするのに1.7日短縮し、平均入院時間を2.2日短縮した。CT画像の好転を22パーセント増加させ、臨床治癒率は33%増加させた。軽症患者の重症化率を27.4%減少させ、リンパ細胞を70%増加させました。」

以上、引用終わり。

↓

2020年2月17日『中医雑誌』

「新型コロナウイルス肺炎への中西医結合治療の作用」

中西医结合治疗新型冠状病毒肺炎作用的思考

刘清泉 张伯礼 et al.

中医杂志. 2020-02-17

<https://kns8.cnki.net/.../de.../11.2166.R.20200215.1057.002.html>

2020年2月29日には、黒竜江省が新型コロナウイルス肺炎の軽症・普通型・回復期の鍼灸を発表しました。

↓

2020年2月29日『黒竜新聞網』

「黒竜江省は、新型コロナウイルス肺炎の中医薬の予防治療計画(第3版)を發布した」

黑龙江省发布新型冠状病毒肺炎中医药防治方案（第三版）

以下、引用。

「新型コロナウイルス肺炎の鍼灸治療計画」
新冠肺炎针灸治疗方案

「一、臨床分類と治療」

一、临床分型治疗

「(一)軽症」

(一) 轻型

「治法：化湿宣肺、理气暢情」

治法：化湿宣肺，理气暢情。

「選穴：百会、神庭、足三里(両側)、曲池、中脘、合谷(両側)、肺俞(両側)」

选穴：百会、神庭、足三里（双侧）、曲池（双）、中脘、合谷（双）、肺俞（双）。

「弁証配穴：『乏力(ぼうりょく：乏力：fá lì：ぼうりょく=倦怠感)』、『怕冷(はくれい：怕冷：pàlěng=寒がり)』で淡白舌のものは、膈俞・腎俞・大腸俞を加える。」

辨证配穴：乏力、怕冷、舌淡者，可加膈俞、肾俞、大肠俞。

「(二)普通型」

(二) 普通型

「治法：健脾益肺、調神暢情」

治法：健脾益肺，调神畅情。

「選穴：百会、神庭、風池(両側)、合谷(両側)、大椎、肺俞(両側)、曲池(両側)、膈俞(両側)、孔最(両側)、足三里(両側)」

选穴：百会、神庭、风池（双）、合谷（双）、大椎、肺俞（双）、曲池（双）、膈俞（双）、孔最（双）、足三里（双）。

「弁証配穴：咳嗽、咳痰のものは、定喘、膏肓を加える。咳が甚だしければ、少商から放血する」

辨证配穴：咳嗽、咳痰者，可加定喘、膏肓。如咳甚可少商放血。

「(三) 回復期」

(三) 恢复期

「治法：安神定志、健脾益气」

治法：安神定志，健脾益气。

「選穴：百会、神庭、太衝(両側)、内関(両側)、肺俞(両側)、足三里(両側)、三陰交(両側)、陰陵泉(両側)、関元、気海」

选穴：百会、神庭、太冲（双）、内关（双）、肺俞（双）、足三里（双）、三阴交（双）、阴陵泉（双）、关元、气海。

「弁証配穴：食欲不振で大便が緩いなら、中脘、天枢を加える。」

辨证配穴：食欲差、大便稀溏者，可加中脘、天枢。

「新型コロナウイルス肺炎の中医艾灸の予防計画」

新冠肺炎中医艾灸干预方案

「一、(濃厚接触者の)医学観察期の艾灸方法」

一、医学观察期的艾灸方法

「治法：調神暢情、解表理氣、化湿和中」

治法：调神畅情，解表理气，化湿和中。

「選穴：百会、足三里(両側)、大椎、中脘。」

选穴：百会、足三里（双）、大椎、中脘。

「二、臨床治療期(確定診断症例)の艾灸方法」

二、临床治疗期（确诊病例）的艾灸方法

「(一)軽症、普通型艾灸方法」

(一) 轻型、普通型的艾灸方法

「治法：化湿宣肺、改善症状、調神暢情」

治法：化湿宣肺，改善症状，调神畅情。

「選穴：百会、合谷、肺俞(両側)、足三里(両側)」

选穴：百会、合谷、肺俞（双）、足三里（双）。

「弁証配穴：寒湿鬱肺証では三陰交に灸を加える。湿熱蘊肺証は豊隆の灸を加える。疫毒閉肺証は神闕のニンニク灸を加える。邪毒蒙竅証では神闕の塩灸を加える」

辨证配穴：寒湿郁肺证，加灸三阴交；湿热蕴肺证，加灸丰隆；疫毒闭肺证，加神阙隔蒜灸；邪毒蒙窍证，加神阙隔盐灸。

「(二)回復期艾灸方法」

(二) 恢复期的艾灸方法

「治法：健脾益肺、調神暢情」

治法：健脾益肺，调神畅情。

「選穴：百会、大衝、大淵、曲池、肺俞、足三里、陰陵泉、関元」

选穴：百会、太冲、太渊、曲池、肺俞、足三里、阴陵泉、关元。

「弁証配穴：倦怠感、冷え感、淡白舌には膈俞・腎俞。食欲不振、大便が緩い、淡白舌には 中脘、天枢。咳嗽、淡白舌には大椎、膏肓」

辨证配穴：乏力、怕冷、舌淡者，可加膈俞、肾俞行温针灸；食欲差、大便稀溏、舌淡者，可加中脘、天枢行温针灸；咳嗽、咳痰、舌淡者，可加大椎、膏肓行温针灸等。

2020年3月3日に『新型コロナウイルス肺炎の診療計画：試行第7版』《新型冠状病毒肺炎诊疗方案（试行第七版）》が発表され、糞便からのエアロゾル感染と、IgM／IgG 血清検査が加わりました。

※新型コロナウイルスは腸にもいます 3/11

日本では PCR 検査を、喉からやっていますが、中国では感染者が治ったかどうかを判断するために、喉だけでなく肛門からも便をとって検査しています。つまりウイルスは腸にいる場合があります。新型コロナウイルスは感染者の便の中にいることもあります。血液の中にいることもあります。

喉では陰性になったけれど、肛門では陽性という患者さんもいらっしゃいます。大阪でも一度 治ったとされる患者さんが再発したことがありました。腸に潜んでいた可能性があります。新型コロナは中医学的には初期は寒湿疫といいます。養生の基本はおへそを温めること。おへそを温め、腸を健康にしておくことは、万一 かかった時に軽症で済むためにも大切です。

2020 年 3 月 4 日『中国中医薬網』は全小林院士のインタビューを掲載します。

「全小林(とうしょうりん)院士：武漢市の『武昌モデル』は、『地域社会(社区：shèqū)』による疫病予防の新思考を提供する」

院士全小林：“武昌模式” 为社区中医药防控疫情提供新思路

↑

武漢市での COVID-19 のアウトブレイクは、武漢の医療システムの「医療崩壊」を招きました。中医学チームを指揮した全小林(とうしょうりん：Tóng xiǎo lín) 先生は、おおまかに『寒湿疫』と分析し『武漢抗疫方』という顆粒エキス剤を中医薬企業の助けを借りて、大量に配布します。次に、携帯電話アプリを開発して、一人一人の患者を遠隔診療して、服薬指導することで、感染のリスクを減らし、医師を院内感染から守ります。

全小林(とうしょうりん) 先生の分析どおり、COVID-19 新型コロナウイルスの問題点は、「疑い症例」や「軽症患者」のケアにあります。

武漢では、中医薬(漢方)が「疑い症例」や「軽症患者」のケアにあたり、しかも遠隔診断システムと顆粒エキス剤を用いることで、医療資源への負担を劇的に軽減しました。中医薬(漢方)が「無症状」「疑い例」「軽症」とリハビリを担当することで、西洋医学は重症者の救命に集中できて、武漢の医療システムを建て直す時間をかせぐという発想です。一人一人の舌診・脈診による弁証論治と煎じ薬の微妙な加減という老中医スタイルとは全く違う「IT 時代の新しい中医学」でした。2020 年 3 月 10 日に武漢の『方艙病院』はすべて閉鎖されました。

2003 年の SARS 流行の際にも、中医学は大活躍して、香港で定着するキッカケをつくりました。今回の中医学の活躍は、まさに記録に値するものだったと思います。